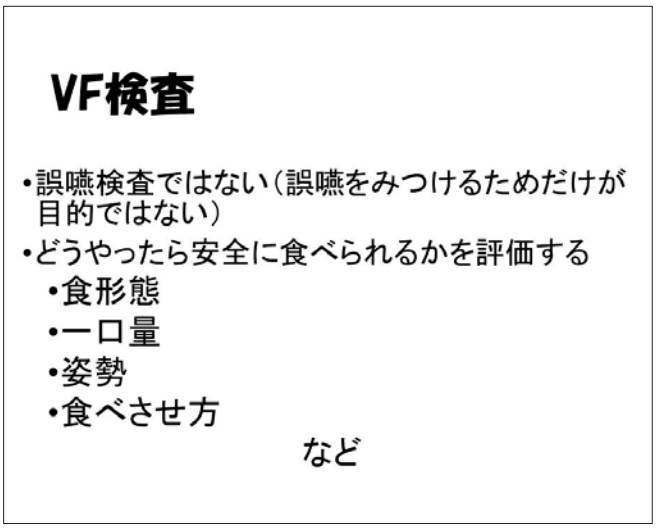
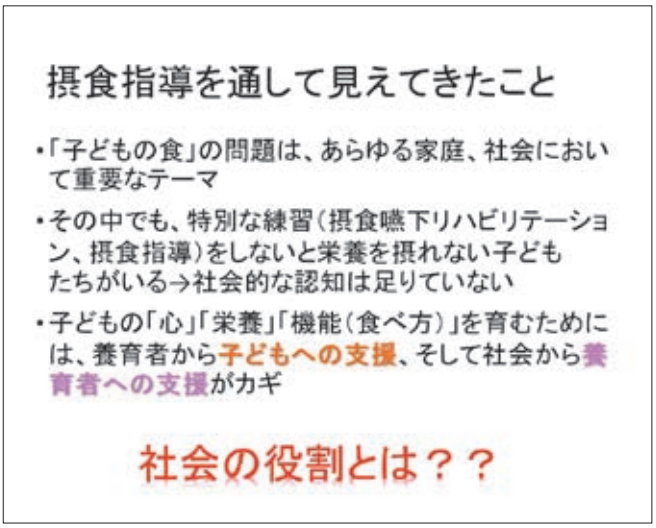
多摩クリニックでは、初診で来られた後に、口腔形態の評価、口腔の評価、食事時の外部観察評価を行い、必要に応じて精密検査（VF検査：嚥下造影検査）を行っているという話でした。



摂食指導を通して見えてきたこととして、子どもの食の問題は障害を持つ子どもだけの問題ではなく、すべての子どもの問題であるが、世の中にはほとんど知られていないことから、社会に訴えていくことが必要であると強調されていました。

また、支援についても、社会の役割として「地域で支える」ことが大事であると述べられました。



講演のまとめとして、上手に食べるために必要なことは、まずは「機能」や「形態」ではあるけれども、それよりも『食べたい！』という「意欲」＝「食欲」が一番大切であることを話されて、講演を締めくくられました。